

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	855.5 たわらや維持管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本施策	33 だれもが生きがいを持てる機会をつくる	目	01	社会教育総務費
		細目	432	生涯学習施設維持管理経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	58	たわらや維持管理経費
担当部課	コード	451800		担当者氏名
	名称	青山公民館		
		連絡先	52 - 1110 (内線)	中川 秀也

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	学習や交流を求める市民全体	※対象件数
成果(どうする)	歴史や文化財についての理解を深めるための交流の場を提供する。このことから市民の学習や交流の機会が増え、施設の利用が増える。	
根拠法令・要綱等	初瀬街道交流の館たわらや設置及び管理に関する条例	
開始年度	平成 17 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	初瀬街道交流の館「たわらや」の維持管理	
社会情勢の変化等	入館料を無料にして、施設・開錠の業務とした。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 建設用地		1 運営主体	
2 建設面積(延床面積)		委託先	
3 規模・構造		2 配置人員	人
4 総事業費	千円	3 年間運営費	1,380 千円
		4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
初瀬街道交流の館「たわらや」開館日数	日	日	目標	0	目標	243
			実績	0	実績	243
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
利用回数	サークル等の利用回数		回	目標	0	目標	20
				実績	0	実績	8
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	2,327	1,094	1,094	1,094	1,094	1,094	1,094	
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源	2,327	1,094	1,094	1,094	1,094	1,094	
事業投入人件費(B)	0.2人 1,440	0.1人 720						
フルコスト(A)+(B)	3,767	1,814	1,814	1,814	1,814	1,814	1,814	

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	昨年度から常駐職員を廃止し、コストダウンを図っている
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 職員常駐で入館料を徴収していたが、費用対効果面で問題があったため、昨年度から職員を置かず、貸館スタイルに変更した。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	中川 秀也
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 この施設は、県指定有形民俗文化財の講看板が多く残された元旅館を買い取り建設したもので、往時の初瀬街道に思いを馳せさせる重要な拠点である。また、他の資料館に展示すれば良いのではなく、この地に何故講看板があるのか、どのようなルートで伊勢や初瀬へ行っていたのか、当時の風俗はどのようなものであったのか、これらを知る上で、「たわらや」にあることの意味が大きい。昨年度からコスト削減のための方式の変更を行ったが、その効果や影響、どのように推移するか経過観察段階であり、現状維持のまま見極める。
現時点における課題、その他	正確な来館者数が現在の方式では把握できない。(貸館実績はわかるが、観光客などの見学者数の把握はできない)
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	公民館講座の会場としての利用や市民サークル活動、地域活動の会場としての利用促進のため定期的に広報や放送などを活用したPRを行う。又、現在年間を通して行っているフォトクラブの掲示や、園芸展、初瀬街道まつりのPRも行う。